

氏 名	野々村 由紀
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第624号
学位授与年月日	令和5年3月17日
審 査 委 員	主査 教授 新野 大介
	副査 教授 原田 守
	副査 教授 和田 耕一郎

論文審査の結果の要旨

上皮性卵巣癌は4つの組織型に分類され、そのうち類内膜癌や明細胞癌は子宮内膜症関連腫瘍（ERONs: Endometriosis-related ovarian neoplasms）として位置づけられている。本研究は、ERONsにおけるmicrosatellite instability (MSI)-Hの頻度をPCR法で評価し、免疫チェックポイント阻害薬の有効性を推測することを目的とした。過去10年間に手術を行った卵巣類内膜癌39例と卵巣明細胞癌52例を対象とし、91例すべてPCR法を用いてMSIの評価を行った。また、DNA mismatch repair (MMR) 蛋白や免疫チェックポイント分子については免疫染色を行った。その結果、91例中5例にMSI-Hを認め、すべて類内膜癌であった。また、MSI-Hを示した5例中4例は免疫染色でdeficient MMRであった。免疫染色の結果からはMSI-H群においてCD8陽性である症例が有意に多く ($p=0.026$)、MSI-Hと予後の間に有意差は見られなかったが、PD-L1陽性群で有意にOSの短縮が見られた (Log-rank test, $p=0.022$)。これらの結果から、ERONsにおいては免疫チェックポイント阻害薬が有効である可能性が示唆された。しかし、MSI-Hの頻度は15%未満と低く、単剤での効果は限定的であると考えられた。